日蓮大聖人の言葉から学ぶ：何よりも受け難き人身
値い難き佛法に値いて候

心を結ぶ本泉寺通信

Musubi

Vol.11
2025
お盆号

令和七年度
盂蘭盆施餓鬼大法要

法要日　八月二日（土）

時　間　午後二時より

卒塔婆　一体　四千円

盂蘭盆施餓鬼大法要に於いて経木塔婆供養を執り行います。
ご希望の方は寺務所までご連絡下さい。

経木塔婆　一体　五百円

※本年新盆をお迎えになるご家族は必ずご参列ください
※お塔婆建立をご希望の方はお早めにお申し込みください

●お盆の供養には塔婆を

お盆は亡き方の霊がこの世に戻り、私たちと共に過ごすとされる尊い時期です。では、なぜそのお盆に塔婆を建てるのでしょうか。

お釈迦さまの教えに「功徳を積み、それを他者へ回向する」ことの大切さが説かれています。

私たちはこの世に生きている間にしか「善き行い」つまり功徳を積むことはできません。けれども亡き方に代わって、私たちがその功徳を行い「どうかあの方が安らかでありますように」と祈る事でその功徳が故人へと届くのです。

塔婆を建てるということは、まさにその追善供養の実践そのものなのです。

命を繋いでくださったご先祖に感謝し、塔婆に手を合わせながら「自分もまた誰かに供養される存在になる」ことを思い、日々を大切に生きてゆく――これが仏道の根幹なのです。

お盆に塔婆を建てるこのひとときを、仏の教えに触れ、ご先祖と心を通わせる時間としてお過ごしいただければと願っています。

本泉寺開山四百年慶讃浄財奉納者芳名

令和７年３月

一口　八潮市　山田成利　様　三回目　計三口
一口　草加市　板津由起　様　一回目　計一口
一口　松伏町　後藤ミユキ様　一回目　計一口
一口　松伏町　髙田伊豆美様　一回目　計一口

令和７年６月

一口　草加市　板津満知　様　一回目　計一口

引き続き皆様のご協力をお願い致します。

勧募期間　令和九年十月十二日まで
勧募金額　一口壱万円より

奉納者芳名

三郷市　恩田孝一　様　四回目　計八口
八潮市　恩田勝廣　様　三回目　計二十三口
八潮市　恩田一夫　様　三回目　計九口
新宿区　平野猛史　様　二回目　計十六口
八潮市　恩田　操　様　二回目　計四口

株式会社サンライズ
富士見市　杉山　淳　様　二回目　計三口
八潮市　緒方智恵子様　二回目　計二口
八潮市　山田成利　様　二回目　計二口
八潮市　滝口勝四郎様　一回目　計三口
八潮市　恩田隆二　様　一回目　計三口

石川塗装株式会社
越谷市　石川智淳　様　一回目　計二口
春日部市　髙橋真典　様　一回目　計二口
足立区　恩田明広　様　一回目　計二口

株式会社ミユキ東京企画
流山市　後藤幸美　様　一回目　計二口
朝霞市　川端　登　様　一回目　計二口
葛飾区　恩田富美枝様　一回目　計二口
三郷市　山後和義　様　一回目　計一口
八潮市　滝口義則　様　一回目　計一口
八潮市　津谷一安　様　一回目　計二口
三郷市　藤原　守　様　一回目　計一口
墨田区　恩田　博　様　一回目　計一口
八潮市　井郷福治　様　一回目　計一口

合計九十口

令和七年三月一日現在

本泉寺開山四百年慶讃　事業報告

妙福山本泉寺は令和九年に開山四百年の佳節を迎えようとしております。

令和四年に慶讃を発願して以来檀信徒の皆様にはご理解とご協力を賜り、ご奉納いただいた貴重な浄財は現在、九十万円を超える金額となっております。

住職として、この上ない法悦に感謝致しております。

さて、慶讃浄財勧募を進める中で、本誌六号にて慶讃事業計画のご説明をして参りましたが、篤信の方のお力添えもありいくつかの事業計画は本年度達成されました。誠に有り難いことであります。

それに伴い、当初の計画を大幅に見直し、本堂天井に龍神様を勧請し『雲龍図』を設置する事と致しました。

『雲龍図』の制作は、本宗の聖地である身延山東谷に居を構える「彫玄堂」に依頼しています。

彫玄堂は身延山大学特任教授で仏像修復の権威、柳本伊佐雄先生によって設立された制作集団で、當山の妙見大菩薩像の造像や、毘沙門天像の修復をお願いした経緯があり、今回の天井画も依頼をした次第です。

本泉寺『雲龍図』

・雲龍図製作費　三百万円

・雲龍図設置費　五十万円

右記の如く必要経費が算出されましたのでご報告致します。

これ以後も、浄財勧募へのご協力をお願い致します。

龍神について

私たちが耳にする「龍神」という言葉。

天に昇る龍、水の中に棲む龍時に雲を呼び、雨をもたらす神秘的なお姿で知られていますが仏教の教えの中では「仏法を守護する」という大切な役割を果たしています。

法華経に登場する八大龍王もお釈迦さまが説かれる尊い教えを熱心に聞き、「この教えを世に広め、守ってゆこう」と誓約しています。

水は形を変え、雲となり、雨となり、川となって全ての命を潤します。仏の教えもまた、人の心に応じて姿を変え、やさしく沁みわたるものです。

龍神とは、その仏の恵みを届ける「橋渡し役」であり、見えぬところで守りを続ける尊き存在なのです。

「水のごとく柔らかく、龍のごとく力強く」

これが龍神のご加護なのです。

『雲龍図』解説

○雲龍図の大きさは？

縦横およそ三メートルで八角形を予定しています。
八角形は「八方位」を表し、どの方位にも仏法の功徳を届けることが出来るようにとの意味があります。
天井への取り付け方法によっては円形となる可能性もあります。

○雲龍図は白黒？

金箔の上に墨で龍神を描いていきます。
下の雲龍図では、白い部分が全て金色となります。
身延山久遠寺本堂の天井に加山又造画伯が描いた『墨龍』と同じ技法を用いて制作していきます。

身延山久遠寺
「墨龍」

この『雲龍図』は現時点での下書きです。
図柄は多少変更になることがあります。

○爪が五本なのは？

「五爪龍」は最上位の霊格を持つ龍とされ、中国では皇帝の龍＝天子に仕える神獣であり他者が使用することは禁じられていました。
現代では「天の命を受けた最上位の守護神」として、極めて格の高い存在であることを象徴しています。

○右手の珠はなに？

この珠は霊珠や龍珠、如意宝珠と呼ばれる珠で「願いを叶える珠」「自在なる宝」を意味します。
龍神がこれを持つのは仏法を護り、衆生を守護する為に、その力を宿していると言う信仰に基づいています。

〈連載〉

本泉寺見仏記

持国天（じこくてん）

第８回

世尊、我亦陀羅尼神呪を以て法華経を持たん者を擁護せん

『妙法蓮華経陀羅尼品第二十六』

持国天立像
像高　三十六㎝
奥行　十　二㎝
恵了院日顕上人造像

東方を守る勇将

持国天王は、仏教における「四天王」の一尊であり、東方を守護する護法善神である。

その名の由来は「国を保持する者」『国土を守護する者』の意を持ち、仏教の伝来とともに中国日本へと伝播し、仏教世界観の中核的存在として受容された。

経典では『仁王経』や『守護国界主陀羅尼経』等にその存在が明記されており、釈尊より仏法や衆生国土の守護を託された存在とされる。

とくに『仁王経』では四天王がそれぞれの方角より人間界に干渉する諸天魔外道を退け、仏法興隆と国家安寧を誓願する様が描写されている。

日本においては、奈良時代に国家鎮護の思想とともに四天王信仰が盛んとなり、東大寺戒壇院の四天王像（８世紀）をはじめとする彫刻・絵画にその尊像が広く表現された。

持国天像は通常、甲冑を着し、忿怒の相をもって表され、剣や戟（げき）または琵琶を持つ像も見られ、特に音楽によって魔を鎮めるとする説話も中世以降に見られる。

また、東方を守護するという象徴的役割から、日の昇る方角＝「発心」や「出発」を護る神格として信仰され、修行・学問・国家事業の始まりに際して、その加護を祈念する例もあった。

総じて持国天は、仏教の護法善神として、単なる軍神的存在を超え、法の秩序と世界の安寧を象徴する神格として、東アジア仏教世界において重い意味を持ち続けている。

本泉寺の持国天像は、第十九世恵了院日顕上人が四天王の一尊として勧請開眼した像である。

明治二十年の本堂火災の際には、宗祖日蓮大聖人の尊像と共に檀信徒によって本堂より運び出され、火難を逃れている。

TOPICS

お寺の掲示板

文殊普賢両菩薩像の御奉納

當山檀徒である松島家御息女、内田雅子様より文殊菩薩・普賢菩薩の御尊像をご奉納頂きました。
亡きご両親と早世された弟君、松島家先祖代々の菩提の弔いを発願され、本堂に開眼奉安されました。
宗祖日蓮大聖人は「孝と申すは高（コウ）なり。天高けれども孝よりは高からず。また孝とは厚（コウ）なり。地あつけれども孝よりは厚からず。」と申され、自らを生み、育ててくれた親や先祖を思いやる心（孝）こそが、天地をも超える尊さであるとお示しになられています。
内田様の篤い信仰と、仏縁への感謝の心から奉納されたこの御像は、當山にとっても末長く大切にお祀りすべき宝仏であります。
ご参詣の皆様も、どうぞお手を合わせ、ご自身の内なる智慧と慈悲の心を養うご縁とされますようお勧め申し上げます。

【普賢菩薩】

【文殊菩薩】

文殊菩薩は「智恵」を司る菩薩であり、右手に智慧の剣を、左手に経巻を持ち、獅子に乗るお姿で表されます。学業成就や智慧の開発を願う多くの人々に信仰されています。
一方、普賢菩薩は「行（ぎょう）と実践」を司る菩薩で、慈悲の実践者として、象に乗るお姿であらわされます。日々の善行を積むことの大切さを教えてくださるお方です。
この二尊は、釈迦如来の脇侍として三尊形式でも祀られることが多く、智と行をともにそなえた菩薩として仏道修行の理想を象徴しております。

日蓮大聖人の言葉から学ぶ

何よりも受け難き人身
値い難き佛法に値いて候

【慈覚大師事】

この言葉は、人生の尊さと、仏法との出会いのありがたさを表したものです。

仏教では、人として生まれることは極めてまれな縁であると説かれています。また六道（地獄・餓鬼・畜生修羅・人間・天）の中でも、人間界は唯一仏法にふれ修行し、悟りへの道を歩むことができる特別な存在とされているのです。

それに加え、仏法（お釈迦さまの教え）に出会うこともまた、まれにして得がたいご縁であるとされます。この「得がたき縁」が今、私たちに与えられていることへの感謝と喜びを、この言葉は静かに、しかし深く教えてくれています。

私たち一人ひとりの「今ここにある命」が、無数の因縁によって支えられた尊いものであることを思い出し日々の生活を大切に生きるための戒めとして、大聖人はお説きになられたのです。

七月以降の年中行事

○盂蘭盆施餓鬼会法要
八月二日（土）

○秋季彼岸会法要
九月二十三日（火・祝）

○宗祖日蓮大聖人御会式
十月十二日（日）

○開運大黒祭・甲子日
八月二十三日（土）
十月二十二日（水）

○開運妙見大菩薩御開帳
毎月一日

茶坊主の小部屋

◉令和の米騒動で備蓄米を買い求める姿が連日報道されているが、最近では「古古古古米」なるものが放出されたと話題になっている。古米がダメとは言わないが、古さが強調されすぎて買う気が起きないのは私だけだろうか。

第12号は令和7年冬発刊の予定です

発行
HONSENJI
日蓮宗 妙福山 本泉寺
埼玉県八潮市二丁目1472-1
TEL:048-996-9843　FAX:048-999-1884
mail:info@honsenji.jp